秋高同窓会だより

題字は塩田会長

発行者
秋田県立
秋田高等学校同窓会

印刷所
秋田オフセット
印刷株式会社

水戸一高と姉妹提携へ

170人出席し平成元年度総会

平成元年度通常総会は八月二十日午後二時から秋田ニューグランドホテルで百七十人が出席して開かれ、昭和六十三年度事業報告、決算を承認、平成元年度予算、事業計画を原案どおり承認、かねて水戸一高から申し入れがあった姉妹提携、さらには四年後の創立百二十周年に備え、記念事業要綱などを決めた。

日高氏（S29卒、ダイエースポーツ担当取締役）が講演

ことしの当番幹事は「9」年次。それぞれ多数の同窓生を動員、準備を整えて総会は39年卒、目黒大作氏の司会で始まった。9年卒の今村久悦氏が開会のことば、校歌斉唱、物故会員に黙禱をささげたあと、塩田会長が「総会にも若い会員が多数出席するようになって大変喜ばしい。さらに同窓会の活性化のため協力を…」とあいさつ。室田校長が、母校の現況について説明、同窓会の協力を謝した。

続いて会務並びに事業報告、企画、名簿、財政、広報四常置委員会から報告が行われた。

「スポーツビジネス」で講演する日高氏（S29卒）

同窓会決算・予算

	昭和63年度 決算額	平成元年度 予算額
〈収入の部〉		
入会金	3,304,800	3,312,000
年次会費	1,040,000	1,300,000
役員会費	1,990,000	2,000,000
協賛広告収入	610,000	600,000
基本運用収入	302,117	300,000
雑収入	233,851	100,000
繰越金	1,486,531	1,578,264
合計	8,967,299	9,190,264
〈支出の部〉		
事務費	926,550	1,230,000
会議費	1,929,568	2,020,000
事業費	2,839,175	3,160,000
基金	1,500,000	2,000,000
雑費	193,742	250,000
予備費	0	530,264
合計	7,389,035	9,190,264
繰越額	1,578,264	

昭和63年度基金会計

〈収入の部〉		〈支出の部〉	
前年度繰越	11,603,740	名簿基本データ入力料	991,800
繰入金	1,500,000		
利息	22,245	基金残高	12,134,185
	13,125,985		

桜谷事務局長が引退

後任事務局長に伊藤守一氏

五年間にわたり当同窓会の事務局長として会の発展に貢献した桜谷吾朗氏（S12卒）は、平成元年度総会を最後に引退、バトンを伊藤守一氏（S21定卒）に引き継いだ。

桜谷先生が就任したのは、五十九年九月。当時は故内藤会長だったが、間もなく死去により金子副会長代理、そして現在の塩田会長と代った。

校長も就任当時は秋山校長。それから畑沢校長、榊田校長と代り、現在の室田校長は四代目にあたる。

桜谷先生は就任以来、同窓会の活性化対策に積極的に取り組み、組織や財政面の枠組づくりに尽力した。また今春は、名簿委員会を積極的にバックアップして、初めて自前の名簿を完成、今後の同窓会の発展に夢を持たせた。

後任の伊藤氏は、長らく母校の事務局や県教育委員会各課に勤務した行政マン。一昨年県岩城少年自然の家副所長を最後に退職した。

桜谷 吾朗氏

伊藤 守一氏

▼桜谷先生の話＝当初から七十歳までのつもりでお引受けした。幸い健康に恵まれ、微力を尽すことができたことを喜んでいる。今後、同窓会の一層の発展のため一会員として協力したい。皆様の温いご指導、ご協力に感謝したい。

母校創立120周年 記念事業など推進

総会 実行委要綱を承認

議事は慣例により塩田会長の議長役で進められ、六十三年度事業報告、決算それに名簿発行費会計の中間報告をいずれも満場一致で承認。平成元年度事業計画、同予算を承認した。平成元年の主な事業計画は、入会式、同窓会だよりの発行、データーベースの整備。年次強化、事務局の整備などでこれに伴う予算の合計は九百十九万二百六十四円となっている。

またこれとは別にかねて水戸一高同窓会（知道会）から申し込まれていた姉妹提携問題について協議、同窓生、現役をも含め将来ともども幅広く交流することを決め、小玉副会長以下準備委員を別項のとおり決める。

このあと日高一雄氏が「ビジネスがスポーツと接する時」と題して記念講演を行った。日高氏は、昭和二十九年卒。東大から三菱商事に進み、現在は株式会社ダイエーのスポーツ担当取締役。東大時代は野球部の捕手として活躍した経験を生かして新分野の「スポーツビジネス」に取り組んでいる同氏だけに語る内容に説得力があり、感銘を与えた。

▽水戸一高同窓会姉妹提携準備委員、小玉得太郎（S18）太田寿男（S25）畠山樹之（S46）山口武秀（S49）杉渕一雄（S7）桜谷吾朗（S12）吉井忠亮（S13）山中良二郎（S20）斎藤広孝（S23）加藤民夫（S31）

◎常任理事会（七月五日）

本年度常任理事会は、七月五日栄太楼旅館に於て会長以下五十三名が出席して開催された。

まず、会長・学校長の挨拶に次いで理事会に提案する次の案件について協議した。

(1)常置委員会よりの報告
(2)理事会提案の案件として
イ、会務並びに事業報告
ロ、昭和六十三年度収支決算
ハ、名簿発行会計の中間報告
ニ、平成元年度事業計画並びに収支予算について
ホ、創立百二十周年記念事業について
ヘ、水戸一高同窓会との姉妹提携について
(3)理事会、総会の日程については、理事会が七月二十九日、総会は、八月二十日と原案どおり承認された。

なお、常置委員会報告では、年次・役員会費の徴収方法について企画・財政両委員長より、それぞれ検討結果の発表があり、今のところ三つの案が考えられるが、何れも問題点があり、暫くの間は現行の徴収方法で行なっていきたいと報告があった。

会費納入 三案いずれも問題点 徴収は当分現行通り

周年記念事業実行委と称する。

▼目的＝120周年記念事業として、学校施設の整備・同窓会の充実強化などの事業を行う。

▼組織＝同窓会員と教職員で総務、校史、名簿、財政、広報、行事、施設の各部門別委員会を組織し、事務局を置く。

▼役員＝実行委員長に同窓会長、副委員長に同窓会副会長が当たり、実行委員、監事、事務局員は実行委員長が委嘱する。

▼事業＝目的達成のため次の事業を行う。年史、会員名簿、記念事業広報の発行、祝賀会その他記念行事、学校並びに同窓会施設の整備充実、奨学・研修基金の創設、同窓会基金の充実、その他。

▼募金＝事業資金は、同窓生及びその他の寄付金をもって充てる。

事務局に専用電話

同窓会事務局がこのほど母校の小体育館二階に引越し、専用電話（32－9553）も付いた。

本部の事務局はこれまで、母校の図書室に間借りしていたが、このほど在校生の専用部室が完成したのを機会に、部屋に代用されていた小体育館の二階が同窓会の専用事務局に割当てられたもの。

新事務局は約百六十六平方㍍の間仕切りしこれまでより2倍以上の広さ。内部をカーテンで飾り、冬季はストーブも取り付ける予定。来校の会員はいつでもお立ち寄りくださいとのこと。

天上天下

今、なぜ水戸一高なのか！総会の席上、鋭い疑問が投げかけられた。諸報告、決算、事業計画と予算…通常でも盛りだくさんの議事。それに姉妹提携問題、百二十周年記念事業問題と、重要案件を抱えながらも、総会は平穏に進んでいただけに突然の問題提起で冷水を浴びた気持ちにさせられた▼先方からの申し込みで降ってわいたような提携話。百十年を越える伝統、茨城県を代表する進学校、それに盛んなスポーツ。水戸一高を母校の兄弟分に選ぶには何一つの不足もない。これに佐竹さんとの歴史的なつながりを考えると因縁めいてくる▼姉妹提携が軌道に乗って、今後、両校の交流が深まれば、秋田・茨城両県にまたがる文化の交流にもプラスになるに違いない。せっかくの〝プロポーズ〟断る理由などどこにもない。むしろ積極的に受ける活動を進めることが、同窓生のネットワーク拡大につながるし、後輩たちの励みにもなろう▼だが、今は国際化時代。本校ほどの伝統校ならば交流を進める対象は、国内外に事欠かない。どうせ交流するなら海外に目を向けるべきだとの議論は理解できる。むしろ、後輩たちの視野を広げ、国際性を身につけさせるためにも国際的な交流に目を向けることが筋論と言えるかもしれない▼しかし国内とは言え他校との交流は全くの初体験である。これからクリアしなければならない問題も少なくない。むしろ相手からの申し込まれたのを良い機会に、まずは水戸一高との交流を軌道に乗せるべきだろう。同窓会の活性化は着々と進んでいる。当番幹事制は定着し、名簿も独自で発行するようになった。今度、これが定着すると夢はさらに大きく広がってくるに違いない。

同窓の9人がアタック

中国の未踏峰・阿爾金山登頂

秋田テレビ報道　石井仁（S42）

快晴にも恵まれ壮挙

中国甘粛省の未踏峰、阿爾金山（アルチンサン＝五七九八メートル）に挑んだ秋田市制百周年記念秋田市・蘭州市合同登山隊（平沢健治隊長以下日本側二十三人、中国側十六人）は八月十九日、念願の初登頂に成功、翌二十日にも第二次登頂を決める快挙を達成して九月一日、全員無事帰国した。

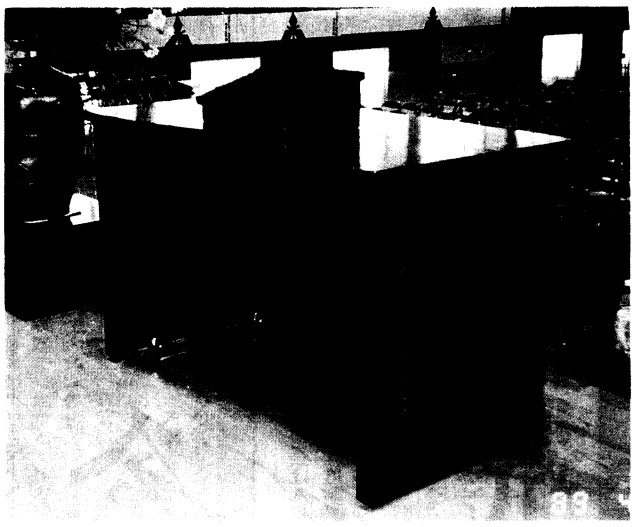
秋田市登山隊は公募で集まってきた二十人（うち女性三人）と報道隊三人。隊長、登はん隊長ら六人が海外登山歴をもつだけで、あとはそこそこに国内登山を楽しむ程度のいわば初心者集団である。一方の中国隊に至っては途中から日本隊との合同登山を望んで、蘭州市が急きょ編成、猛特訓を重ねた急造登山家たちばかりで、四千メートル程度の高度は訓練で体験しているものの、それから上の氷河、氷壁は経験なし、何しろアイゼン、ピッケルはもとより登山靴すら持っていないという心細さなのだ。もともと登山という行為にあまり大きな価値観を認める習慣のない中国のこと、まして登山協会もない甘粛省のにわか登山隊とあっては無理もない話である。もちろん、それらの登はん用具は日本側が用意したが、使う要領や技術については一緒に行動するなかで各自に体得してもらう以外に、日程的に方法がなかった。

それにしても、このほとんどシロウト集団ともいえる日中合同登山隊から、なぜ延べ十五人もの登頂者（うち中国隊二人）を出すことができたのだろうか――第一に頂上アタックの両日とも快晴、微風の天候に恵まれたこと、第二に高度順化に成功し、荷上げなどが順調に進んだことがあげられよう。他にザイルを延長二千二百メートルにもわたって氷河に固定するなど、危険除去のためのルート工作がスムーズにいったこと、大きく体調をくずす者がなかったことなども見逃せない。しかし、それもこれも、絶対に山頂に立ちたい、初登頂を成功させたい、という強い意志を全員が最後までもち続けたからこそ、の幸運であった。

この登山隊には偶然にも、九人の秋高同窓が顔をそろえた。山岳部OBは平沢健治（隊長、S31）、丸山芳雄（登はん隊長S32）、大畠弘一（医師、S29）、渡部克宏（秋高教諭、S56）、沢田石順（秋大付属病院医師、S57）、山谷直樹（法大、S61）の六人。他に岡部幸雄（NTT、S45）、大友直（AKT、S57）、それに筆者の三人である。このうち丸山、岡部、渡部、沢田石、大友の五人はそろって第一次アタックに参加、みごと発登頂に成功した。この壮挙の陰にABC（アタックベースキャンプ＝四三二〇メートル）で終始、冷静沈着な判断、指示を出し続けた平沢、大里のファインプレーがあったことを最後に付け加えておきたい。＝文中、敬称略＝

二つの卒業年次から

母校に記念の寄贈



昨年、秋中51期会（昭和13年卒）から卒業五十周年記念として50万円、秋高33会（昭和33年卒）から同じく卒業三十周年記念として10万円の寄付が母校に対してあった。

学校では早速その好意を生かし、今年三月大体育館に13年卒分としては、カバー付演台・花台を、33年卒分としては、カバー付盆栽台とラシャ張り書見台を購入した。これらは大体育館で行われる諸儀式用として使用されるものだが、今まで無かった物も用意されたことになり大変喜ばれている。学校では「卒業生の気持ちに感謝し末長く大事にしていきたい。」と話していた。

会費の徴収、現行通り

常置委員会だより

「同窓会だより二十九号」発行以後に開催された常置委員会は、次の通りである。

△**企画委員会**（六月八日・六月三十日）

企画委員会は六月中に二回開催されたが、二度とも協議事項は、(1)創立百二十周年記念事業について、(2)水戸一高同窓会（知道会）との姉妹提携について、(3)年次・役員会費についてである。

百二十周年については、八日にタイムスケジュールを決めると共に、学校側の希望意見を聞いた。また、三十日には記念事業実行委員会要綱案を決定して常任理事会に提出することとした。

水戸一高同窓会との姉妹提携については、八月の総会で承認を得て、その後会長委嘱で準備委員会を設置する。調印と交流の具体的内容は、準備委員会で検討し、進行させることとした。

年次会費・役員会費の徴収方法については、太田委員長より私案として現行の二本建方式の改善案を、また、事務局案としては年次会費に一本化の案が出されたが、現在の年次会費、役員会費の納入状況や各年次の活動状況などからして、改正は尚早であり、今暫くは現行どおりとすることになった。

△**財政委員会**（六月二十六日）

今回は、決算、予算のほか、特に会費（年次・役員）のあり方について討議された。企画委員会で審議された二案を聴取すると共に、本来は個人毎に納入すべきではないかとの意見も出されたが、現在の年次の運営状況では、現行二本建て方式を変えないで、今暫らくこの方法でいくことにした。

△**広報委員会**（八月二十九日）

本年度二回目の編集会議は、千秋会館に於いて小林副会長以下九名の出席で開かれた。「だより三十号」の主要割付と執筆分担、原稿・広告の収集などについて話し合いをした。

出席者65人にのぼる

水戸一高と姉妹提携

準備委組織し検討

◎**理事会**

理事会は、七月二十九日（土）第一会館本館に於いて、六十五名の出席者で開催された。

創立百二十周年記念事業については、事業推進計画のタイムスケジュール・実行委員会要綱等が承認された。また、水戸一高同窓会（知道会）との姉妹提携については、総会で承認後直ちに準備委員会を組織し、調印を終り次第具体的実行案を検討していく事が了承された。

年次会費・役員会費については、企画・財政両委員長の報告が了承された。

役割分担など決定

◎**第二回当番年次打合会**

本年度第二回の当番年次打合会は、八月九日・千秋会館に於て、小玉副会長、太田企画委員長、各年次の代表者及び事務局とで総会についての打合せを行った。まず総会、懇親会の次第と司会者の決定。その他の役割分担も決める。また、当日の講演者は日高一雄氏（昭二九卒）に決まる。なお、当日の会を盛会にするため、各当番年次の会員には出席を強く呼びかけることとした。

会の運営検討必要

◎**支部長会議**

本年度支部長会議は、八月二十日総会に先だち、十二時三十分よりアキタニューグランドホテルに於いて開催されたが、支部長は代理を含めて三名（県庁、営林局、十条）の出席者であった。

本部からは正副会長に常置委員長と事務局長とが出席し、総会案件事項や会の活動状況を説明し、支部からは現況について報告があって予定通り終了した。

今回も又三名のみの出席者でこの会の運営については、再検討されるべきと考えられる。

哀悼

（判明分・敬称略）

堀江富太郎（T3）秋田市1・5
沢　英男（S8）長岡市1・6
山田　富義（S29）東京都1・6
佐藤　健治（S14）秋田市1・6
船木　平（S17）秋田市1・6
荒川不二雄（S7）東京都1・6
福田　忠（S7）四街道市1・7
宇佐美禮治（S9）秋田市1・7
佐々木　昭（S11）本荘市1・7
杉山　賢治（S9）秋田市1・7
新田（鮎川）健（S31）盛岡市1・7
磯貝（長浜）谷涼子（S30）前橋市1・7
米谷　毅（S25）秋田市1・8
信太　勝（S16）秋田市1・8
福田　文二（S21）中国敷煌1・8
佐々木理一（S6）和田町1・8

秋高三九会の皆様のご健康をお祈り致します

昭和三十九年卒（第九〇期）

◇**秋高三九会**

会長三B　目黒　大作
副会長三C　今林　忠
〃三D　安藤　正昭
〃三F　速水　洋子
幹事三A　赤沼　侃
〃三D　高橋　文昭
〃三E　鈴木　諒
〃三F　樋渡　良紀
〃三G　伊藤　久男
〃三H　平野庫太郎
〃三I　真壁江田男
〃三J　近藤　嘉之
事務局三B　竹田　進
〃三C　渡辺　克忠
電話〇一八八―二八―四一二五
新屋石油内

◇**東京支部会**

会長三G　斉藤　一美
幹事三C　柳田　政彦
〃三D　二木　猛
〃三F　山田　郁子
事務局三H　岩川作丕圖
電話〇三―三九四―四八八八
岩川税理士事務所内

卒業30周年を記念

S34年同期会

卒業三十周年を記念した、三十四年卒同期会が、七月二十二日に秋田市の弥高会館で開かれた。

当日はまず、同期生で直木賞受賞作家の西木正明氏が「日本人の顔」と題して「われわれ卒業当時と現在の日本人の顔の違いや女性の出身地域別見分け方」など、一般の人々をまじえ約二百人の聴衆の前に講演した。

西木氏講演

続いて開かれた卒業三十周年記念会には、塩田雄次同窓会長、室田弘校長はじめ桜谷吾朗先生など十三人の来賓、恩師のほか百二十六人の同期生が参加した。

来賓のあいさつ、恩師の一言ずつのスピーチのあと懇談に移ったが、遠く高知市から駆けつけた相場誠君など、県外から四十一人も参加したとあって、三十年ぶりに会う顔も多く、お互いに名札と顔を比べ合っては、懐しそうに大声で話しかけていた。

五十歳近くなっても、同級生に対する意識は不思議に変わらない。会場内では高校時代のいたずらや恋にまつわるエピソードが次々に紹介され、爆笑をさそっていた。また一方では、家族、仕事など近況を交換し合う姿も随所で見られた。

会は校歌、校友会歌の斉唱で幕を閉じたが、一堂は近くでの二次会、川反での三次会、四次会と、いつまでも別れがたく杯を酌みかわしていた。

つどい

川崎の旧友 迎え楽しく

秋中50期会

秋中五十期会（S12卒）春の集いは、川崎市在住の野尻幹男、細谷行雄の両氏を迎え、去る五月十五日、アキタニューグランドホテルに於て開催された。

我々の大半は、既に古稀を迎え、昔の思い出に浸る年輩となり、遠来の両氏に会うべく集まった会友は二十九名であった。

両氏に会うのも卒業以来初めてという人も多く、お互いに往時の面影を確かめあいながら思い出に花を咲かせた。

野尻氏は、戦後日本航空国際線の機長となり、世界中を飛び回った男で、かつて魁夕刊に連載された「空駆ける人たち（あきた民間航空史）」の中にでてきたひとりである。

細谷氏は、このたび参議院議員に当選した細谷昭雄氏の兄で、その応援に来た機会を利用しての出席であった。

論語に言う「朋あり、遠方より来る、亦楽しからずや」の通り、時の経つのも忘れて歓また歓、昔を今に語り合った。

鹿角のOBが集結

平成元年鹿角支部総会は、六月二十六日、花輪の料亭「松屋」で開かれた。大里（祐）幹事の開会の言葉に続き、全員で校歌を斉唱。引き続き大里支部長があいさつ。そして会計報告等の諸報告が異議なく承認された。

当日は同窓会本部より小玉副会長の出席を賜り、母校の学業やスポーツ等の近況、また同窓会が非常に活性化していること、また水戸一高との姉妹校提携の話などを拝聴。引き続き阿部新先輩の発声で乾杯し、懇親会に移った。

当地・鹿角は、県北の奥深いひっそりとした盆地に開けた町。杯を傾けながらの話であったが、小玉副会長は「鹿角は菅江真澄遊覧記などにもみられる様に、歴史的にも由緒あるすばらしい事柄が数多く残されている」と話しておられた。そして総会の始まる前に、内藤湖南先生の旧宅蒼龍窟あたりを散策された由。折りしも当日、六月二十六日は湖南先生の命日。非常に感慨深いものを感じた。

毎月一回

S36 昼食会を開催

「36会」（昭三六同期会）は正月と盆の年二回例会を開催しており、都合のよい方に出席できることになっている。八月十二日志田屋で開いた例会は、卒業以来という関東支部の四人を混じえ、久しぶりに盛り上がりをみせた。

なお二年前から秋田市内の有志で「夢見（むみ）の会」を結成、湊昭策、照井清司両君を中心に毎月一回の昼食会を行っている。

（石川清治記）

思い出の地 強首で乾杯

卯申会（S7卒）

六月十二日、仙北の強首ヘルスセンターで卯申会（S7卒）全県大会を開いた。諸兄の御配慮により、同センターの送迎バスで、秋中時代のイベントの一つ根小屋町の旧校舎を出発。かつて当地まで一路行軍した思い出の敝舎跡をめぐり、すっかり畑や水田に様替わりしたこの地を目にし感無量、年月を感じた次第。

会は伊藤幸枝兄の司会で始まり、地元を代表して伊藤四郎兄があいさつ。乾杯のあと飲むほどに、酔うほどに昔に返った思いで、楽しいひとときを過ごすことができた。帰途、近くの小山田宣雄邸宅で二次会。すっかり御厄介になった。

（桐澤春雄記）

新旧副知事を激励

S19同期会

去る三月勇退した前副知事丸山完君に対する慰労と後任副知事池田竹二郎君を励ます十九年卒同期会は、今までにない七十人という多数の出席者のなかで四月二十七日、平安閣において開催した。

辻会長から両人に対して慰労と激励の挨拶のあと、記念品を贈呈。前副知事の謝辞と新副知事の抱負披瀝後、懇親会に入った。

同期生から再び副知事誕生ということで話も大いに弾んだ。還暦を過ぎたとは思えない若さ一杯で歌、踊りの披露があり、なごやかななかに愉快な〝ひとときゃ〟を過ごした。最後に校友会歌、校歌を斉唱し、盛会裡に終了した。

（平野秀三郎記）

青春に思いを馳せて

S30（定）

平成元年四月十五日（土）、秋田市郊外の名湯「さとみ温泉」で開かれた。

お互いに職をもちながらも、一つの学舎で充実した青春を過した旧友二十六名。

卒業以来の再開を、肩をたたき手を握りあって喜びあう姿。髪の薄くなった友、白髪がめっきり増えた友。三十数年の歳月の積み重ねは戻すべくもないが、皆それぞれ昔の面影をたどりながら、今様浦島ならぬ青年に立ち返っての一夜であった。

さて、温泉にゆっくりつかってから、来賓の加賀谷、浅石、三浦（孝）、高山（伊藤）の四先生を囲んでの懇親会にうつったが、開宴にさきだち、先年逝去された三浦誠治先生はじめ長谷川四郎君など旧友六名の物故者のご冥福を祈っての黙禱、ついで、かつての名応援団長館山鉄男君の音頭で校歌の斉唱後宴にうつった。

活した花が咲き、夜の更けるのも忘れて高歌校吟とどまるところを知らず、心ゆくまで旧交を温めあった。翌朝、名残り盡せぬ思いを翌年の再会に託して会場を後にした。

今回の会を開くためにご苦労をおかけした幹事の皆様に心からお礼を申し上げます。

（土島記）

紅一点を迎えて

首都圏S37同期会

去る二月十七日、首都圏在住の昭和三十七年卒業生同期会が新橋第一ホテル新館で開催された。幹事の佐藤皓一、伊藤清信、小林道太郎の三氏の尽力で出席者は二十九人にのぼった。

当日は冷たい雨がそぼ降るあいにくの天気でしたが、紅一点の小野崎（村山）久江さんも出席。バイキング料理を味わいながら、思い出話や近況報告でなごやかな一夕でした。

散会後も名残りが尽きず、半数が二次会へ。さらにその一部は三次会へ流れ、カラオケで校歌をうたいやっと解散したほどでした。幹事団では今後も毎年こうした同期会を開いていこうと話し合っております。

（長原碩之記）

百十人が一同に

15年ぶりS48

昭四八同期会は八月十二日アキタパークホテルで十五年ぶりに開かれた。来賓の恩師らに加えて百四人の同期会員（うち女性十八人）が出席するなど、終始活気が余りあるほどの盛会となった。

今後は二年に一度、八月の第二土曜日に開催することを決定した。なお今回作成した同期会簿を希望の方は三百円（送料込み）でお分けします。宛先は母校同窓会48年卒常任理事（秋田市手形中台字一番地）まで。

年次紹介

われわれは、昭和43年4月にあこがれの秋高に入学し、在学中の3年間を思い起こしてみますと、入学当初の校長先生は「汝何の為にそこに在りや」の名言と文武両道精神を強力にたたき込んでくれた鈴木健次郎先生で、今でも強く印象に残っております。鈴木校長の影響を強く受けたスポーツ部の活躍はめざましいものがありました。今だ記憶に鮮明に残る昭和40年の硬式野球部の甲子園での準決勝進出（惜しくも優勝校三池工に3対4で敗退）、41年の連続出場（中京商に0対2で惜敗）。ラグビー部も2年、3年時に花園への連続出場（2年時ベスト4、3年時ベスト8といずれも優勝校天理、福岡電波に惜敗）きわめつきは剣道部の活躍でした。1・2年と全国大会で一回戦敗退を繰り返していた剣道部が三年時遂にインターハイ、国体と二つの大会の全国制覇を成しとげたのである。長い秋高の歴史の中でも最も輝やかしい足跡を残したと自負しております。また大きな出来事として当時全国的に学生運動が盛んであり、安田講堂ろう城事件により東大入試の中止があり、数名の同期生が進路の変更をせざるを得なかったり、大学入学後、学生運動の影響をもろに受けた時期でもありました。

43年卒同期会

平成迎え組織再構築

さて卒業後21年、同期生は各方面の一線で活躍している年代となりましたが在学中燃焼し切ったのか同期会も過去不定期に3回開催したに過ぎず会員の住所も半数程より掌握出来ずにおり、同窓会にも大変ご迷惑をかけて来ましたが、平成元年を期して会を組織化いたしました。年会費千円を徴収し2年を一会計年度として運営していくことになりまだ不完全ですが80%強の会員の消息を把握し平成版の会員名簿を発行しました。同窓会の年次会費、理事会費の納入及び母校への援助等も計画へ盛り込み同窓会へ協力しつつ会員間の親睦を深めて行くことになりました。

去る八月十二日の総会には恩師はじめ女性会員四名を含む八十名程参加し発会を喜こびあいました。遅きに失した同期会発足ですが、在学中お世話になった同窓会へのお返しと母校発展の為に寄与していきたいと思っております。

事務局　佐藤公世記

慶祝（判明分）

◎秋田県民栄誉賞
佐藤　菊夫氏（S24卒）

◎勲五等瑞宝章
小山田宣雄氏（S7卒）

秋高三九会会員
よろしく
御支援を
お願いします

県議会議員
佐藤　一誠

本荘市議会議員
尾留川俊一

前男鹿市議会議員
高野　寛志

堀井ビルグループ
オーナー
堀井　逸郎（S19卒）
秋田市大町二―六―一五
電話　〇一八八―六三―二五二五
FAX〇一八八―六二―〇〇九五

伊沢精神科医院
伊沢正義（S19卒）
〒158
東京都世田谷区瀬田三―一―二三
電話　七〇〇―八七八二（代）

丸山　完（S19卒）
秋田市寺内字堂の沢八十四
電話〇一八八―四五―七二七七

秋田県議会議員
植田正夫（S19卒）
〒010-16
秋田市新屋元町12―17

母校から7競技に出場

全国高校総体

七月三十一日から四国四県を会場に開かれた平成元年度全国高校総合体育大会に、母校からは柔道、剣道、バドミントン、テニス、陸上、ボート、卓球の七競技に出場、力と技を競った。

鎌田、宇佐美、竹内の3選手
最優秀選手賞を受賞

柔道で個人優秀賞受賞の左から中量級 宇佐美　軽量級 竹内　軽中量級 鎌田の3名

◇柔　道

団体戦は東海大四、津幡にともに敗れ予選突破は成らなかった。個人戦は軽中量級の鎌田玄徳、中量級の宇佐美晋哉、軽重量級の竹内栄の三人が、それぞれ持ち味を存分に発揮、いずれも二勝一敗で予選を突破したが決勝リーグ一回戦で三人とも惜しくも敗退した。しかし、優秀選手賞を受賞した。

◇テニス

十九年ぶりの全国大会出場だったが、男子団体一回戦で四日市工に0－3のストレートで敗れた。

◇剣　道

六年連続の出場。男子団体は予選リーグで長野に勝ったものの和歌山東には2－2で本数負けとなり、一勝一敗で決勝トーナメントに進出できなかった。

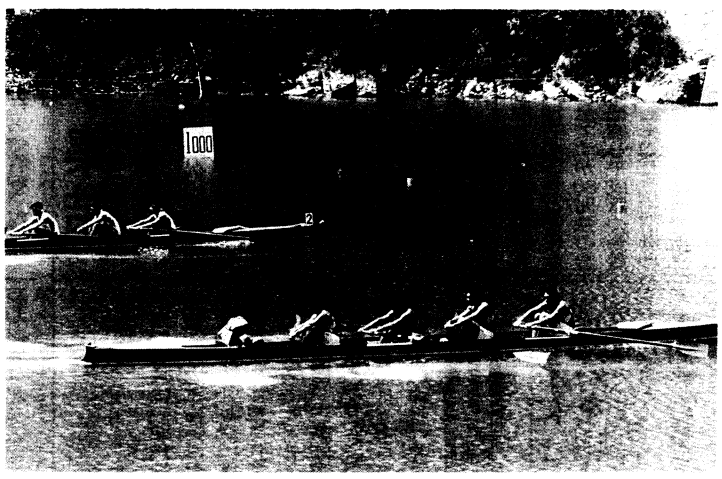
個人戦男子に出場した川嶋俊巳は一回戦で、女子の藤原理佐子は二回戦で敗れたが、その相手がいずれも決勝まで進出したことを思えば、きわめて残念であった。

◇陸　上

男子二百Mで伊藤幸治が22秒50、同八百Mでは大野亨が1分56秒74のいずれも自己ベスト近いタイムで走ったが、予選通過はならなかった。

◇卓　球

男子シングルスに出場した二人のうち、戸堀敏孝は今年入学の一年生である。六月の全県総体で、県高校卓球界史上初めて一年生で優勝者となった。東北大会でもベスト8に入り、全国大会でも活躍を期待されたが、やや緊張感がみられ、実力発揮できず初戦で敗退した。また、佐藤順も一回戦突破はならなかった。



決勝進出をかけて、ハイピッチで追い上げる母校クルー

猛追、一歩及ばず
準決勝・秒差で2位0.3 決勝進出は成らず

◇ボート（ナックルフォア）

二、三年の混成クルー。準決勝でスタートをつまずいたものの、六百から猛烈なハイピッチで追い上げ二校を一気にゴボウ抜き。ゴールで、観客は「秋田が勝った」と言っていたが0・3秒差で二位。決勝進出はならなかった。ローアウトするほどの素晴しい闘志は大会本部においても賞賛された。順位決定戦は力尽きた感じであったが、今後に大いなる収穫となった。

▽予選　③秋田
▽敗者復活戦　①秋田
▽準決勝　②秋田
▽順位決定戦　④秋田

優勝校、灘高に惜敗

囲碁部

全国高校囲碁選手権大会は、7月31日から三日間、東京市ヶ谷の日本棋院で開催された。

わが校は団体戦において八年連続出場であり、しかも全員三年生とあって奮闘を誓いあって大会に臨んだ。団体一回戦は福岡県代表の小倉高校と対戦し、大将堀川健・副将高橋一嘉・三将掘松暢とも危なげなく大差で勝ち3－0で二回戦に進んだ。次の相手は大敵灘高、しかも大将はプロ級の腕で全国でも有名な存在。結局敗れはしたものの三選手とも善戦。二回戦中、終了したのが最後とねばりをみせた。個人戦では団体戦の疲れからか堀川健が一回戦で負け残念な結果となった。今年は優勝チーム灘高と互角にわたりあるという大きな収穫を得ることができた。しかし現在一二年生の部員がおらず、来年は伝統ある囲碁部の灯が消える可能性があり心配している。生徒諸君の入部を切に期待しているところである。

12年ぶり総合優勝
NHK杯全県大会

放送委員会

六月のNHK杯全県大会では、各部門で入賞、入選をはたし、十二年ぶりに総合優勝（金賞）に輝やいた。入賞はアナウンス部門で大久保敦也、ラジオ番組部門課題で「生きる－18の自分は－」、自由部門で「I was born」「Aqua」の二作品であった。また研究発表でも一年生が活躍し入選した。この勝利は三年生を中心に合宿などで努力し、チームワークを強めた結果であろう。七月末の東京での全国大会では、大久保敦也が準決勝に進出するなど健闘した。NHKホールの会場で、水準の高い作品を視聴したが、秋高放送委員会の力量を全国レベルにまで高めるためにはまだ課題があり、今後の努力が期待される。

今年も多い国体出場
〔東北総合体育大会〕（ミニ国体）

柔道で竹内栄、鎌田玄徳の二人、バドミントンで松橋弘光、佐藤慶三の二人、卓球で戸堀敏孝、剣道の男子で川嶋俊巳、工藤勇樹、淡路貴之の三人、女子で藤原美佐子、相馬亜希子、畠山直子の三人が、それぞれ県チームのメンバーに選ばれ、東北総体で活躍し、そのうち、柔道（二位）、卓球（一位）、バドミントン（四位）は、北海道での国体にも出場した。さらに水泳の宮腰大（400Mメドレー）も県代表として出場した。

ほかに国体出場は果たせなかったが、陸上競技では、伊藤幸治（200M、1600Mリレー）中嶋俊之（400Mリレー）、大野亨（800M、1500M）、篠田和典（1600Mリレー）の四選手が東北総体で活躍した。

◇バドミントン

ダブルスに出場の松橋弘光・佐藤慶三組、シングルスの松橋弘光は、いずれも一回戦で敗退した。

事務局だより

▼八月三十一日、桜谷前事務局長より事務引継をうけてから早半月余りにもなるが、未だ何をするにも不慣れで自信がなく、皆様にはご迷惑をおかけしている事と思います。今後は私なりに努力していきたいと思っておりますので、皆様にはご指導と共に宜しくご協力の程お願い申しあげます。

▼さて、今までは学校図書館の一部に間借りをしていた同窓会事務局も、学校長の配慮により六月から小体育館の二階に一室を設けてもらうことになり、間仕切りを終えた六月二十六日から移ってきました。広さは前より二・五倍位に広くなり、明るく仕事の仕易い所です。なお、電話従来の学校内線のほかに、直通三二－九五五三番もつきましたのでお気軽にお電話下さい。ただし、内部の整備にはこれから備品を整えていかなければなりません。

▼本年度の年次会費は、九月十五日現在で十八年次分が納入されております。未納年次の期は早目に納入願います。なお、役員会費の未納の方には、このだよりと共に再度払込用紙をお送りしましたので、よろしくお願いいたします。

▼だより二十九号で報告後の会務は次の通りであります。

○5・27東肥羽城会○6・8企画委員会○6・23大曲支部総会○6・26財政委員会○6・26鹿角支部総会○6・30企画委員会○7・5常任理事会○7・8西仙北支部総会○7・17会計監査○7・29理事会○8・9当番年次打合会○8・12 43年・44年・46年・48年次同期会○8・15 32年・39年次同期会○8・20支部長会議・平成元年度総会○8・29公報委員会。

編集後記

○…桜谷先生の突然の引退は当広報委員会の作業にも大きく影響した。何しろこれまでは、すっかり事務局にぶら下がっていたため大慌て。改めて先生の偉大さを思い知らされた次第。それにしても桜谷先生、長い間ご苦労さんでした。

○…秋田市制百周年を記念した中国の阿爾金山日本側登山隊一行二十三人の中にわが同窓生が九人もいた。旅の疲れも見せず同行の石井仁さんが一文をまとめてくれた。一ヵ月余に及ぶ苦労物語、さすがに迫力がある。それにしても石井さんの帰国を待ち構えるように原稿を急がせたあつかましさ。平にご容叔を。

小野勇本店
小野又雄（S18卒）
秋田市金足追分海老穴一八五
電話（〇一八八）七三－二二一四

米谷耳鼻咽喉科医院
米谷卓三（S29卒）
秋田市将軍野南一丁目十番五十七号
電話 四五－七一一〇番

科学精密機械 電子計測器 取扱
株式会社 理工
代表取締役 佐藤準一（S29卒）
〒010 秋田市中通四丁目三番二三号 消防会館内
電話（〇一八八）三五－八一三三（代表）
FAX（〇一八八）三三－〇五六〇

昭49年卒同期会 会員各位
次期総会は平成3年1月3日の予定です。
（隔年開催）
住所の変更は、次まで御一報を。
佐藤（0188）86－2342
黒木（0188）34－7309

ヤング理容室
高橋郁男（S29卒）
秋田市大町一丁目2-45
TEL 0188(62)6972

秋山皮膚科医院
秋山まり子（旧姓 丹内）（S29卒）
〒010-16 秋田市新屋元町21-10
☎0188(28)2211

赤坂皮膚泌尿器科医院
赤坂哲治郎（S29卒）
本荘市谷山小路7の1
TEL 0184(23)2261
自宅本荘市薬師堂字谷地292の3
TEL 0184(23)3235

老人のためのリハビリと療養とやすらぎのコミュニティ空間
老人保健施設 ニコニコ苑
施設長 稲庭千弥子（旧姓 今村）（S47卒）
住所 秋田市下新城中野字琵琶沼138-1（中野四区バス停前）
TEL 0188(73)2525

内科・小児科・神経科・精神科
痴呆性老人専門病棟・ディケア施設併設
今村病院
院長 今村久悦（S9卒）
住所 秋田市下新城中野字琵琶沼124-1（中野四区バス停前）
TEL 0188(73)3011

医療法人春生会 大里病院
大里祐一（S29卒）
秋田県鹿角市花輪堰向五六
電話 〇一八六－二二一一二五一

石塚邦夫 油絵展（S29卒）（スペインの光と風、その他）
'89.10/30(月)・31(火) 11/1(水)・2(木)・4(土)
資生堂ギャラリー
〒104 東京都中央区銀座8-8-3（資生堂パーラービル9F）
TEL 572-2121(代)11:00AM～6:30PM（日曜・祝日休館）
住所 秋田市新藤田字中山台51-7　TEL(0188)34-3220